

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1	伊江村ハブ対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(6)-ア	
	担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成27~令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域特性に応じた生活基盤の整備	
事業内容	本村に生息するハブによる健康被害から、村民及び観光客を守るため、生息地となっている観光地や海岸沿いの清掃を行い、ハブが住処を作りにくい環境を整備する。また、捕獲器を設置しハブの捕獲駆除に取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	5,022	5,000	5,600	5,600	
	(b)予算現額	2,980	4,330	4,320	4,925		
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,042	▲ 670	▲ 1,280	▲ 675	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-		
	A. 計(b+d)	2,980	4,330	4,320	4,925	0	
	B. 執行済額	2,980	4,330	4,320	4,925		
	うち交付金充当額	2,384	3,464	3,456	3,939		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	
予算の状況の説明	予算の範囲内で適正な執行を行った。入札残があり、675千円減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	ハブ生息地の清掃実施 (26,000㎡清掃)	目標	(生息地清掃)	(生息地清掃)	(生息地清掃)	(生息地清掃)	
		実績	清掃完了	清掃完了	清掃完了	清掃完了	
	捕獲器の設置 (15基設置)	目標	(捕獲器設置)	(捕獲器設置)	(捕獲器設置)	(捕獲器設置)	
実績		設置完了	(捕獲器設置)	設置完了	設置完了		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブの生息地の清掃を行うことにより、観光地の安全対策に繋がった。 ・平成29年度において本事業のハブ捕獲器設置によるハブ捕獲実績は0であったが、事業実施時期の見直しや区長会、村民によるハブ目撃情報の収集、及び委託業者との協議により4匹のハブを捕獲することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		目標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
	ハブ咬傷による被害件数0件	実績		0件	1件	1件	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	平成28年度においては、ハブ咬傷被害件数は0件で成果目標を達成しているが、平成29年度、30年度において(いずれも本事業実施期間中)各1件づつハブによる咬傷被害が発生しており、目標は達成できなかった。						

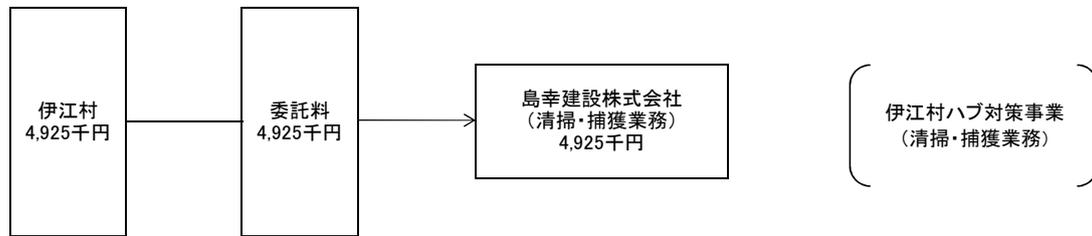
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃業務においては、ハブの生息地の清掃を実施し観光地の安全対策に繋がった。 ・捕獲業務については、平成29年度ハブの捕獲実績が0匹であったため、事業実施時期の変更及び捕獲器の設置場所の再検討を行った。区長会、村民によるハブの目撃情報の収集、委託業者との協議により本年度においては4匹のハブを捕獲することができた。 しかしながら、前年度同様成果目標であるハブによる咬傷被害0件を達成することができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区長会、村民の目撃情報、委託業者と協議を行い捕獲器を設置しているが、ハブが設置場所を必ず通過するとは限らないため、その場所の状況を考慮し設置期間についても改善が求められる。 ・平成29年度、30年度とハブによる咬傷被害が発生しているため、本事業以外においてもハブ咬傷の注意喚起を広報誌や村ホームページに掲載しハブによる咬傷被害を未然に防ぐ必要がある。

今後の取り組み方針

・青少年旅行村においては多くの観光客や村民が利用する場所であることから、管轄している商工観光課とも連携を取って清掃を実施し、観光地の安全対策を図っていく。
 ・捕獲業務においては、捕獲器の設置期間の検討を行う。また、巡回時に捕獲が確認できない場合は捕獲器の方向等の微調整を行いハブ捕獲率の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
4,925	4,925	3,939	986	



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○選定方法として村の格付土木B(造園工)を抽出し入札を執行していることから妥当であったと考える。 ○予算規模については、設計書をもとに予定価格を設定し執行していることから妥当であったと考える。 ○業務後の検査において、書面及び現場確認検査を実施し、適正に事業を執行していると判断されたことから、事業目的に即した費目及び使途であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 伊江村自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(11)-ア		
	担当部課名	公営企業課		事業実施(予定)年度 平成26~令和3年度		交通・生活コストの低減	
事業内容		沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-9			
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a) 当初予算額	12,960	12,000	12,960	14,580	14,013
	(b) 予算現額	12,922	13,702	14,220	14,215	14,923	
	(c) 増減額(b-a)	▲38	1,702	1,260	▲365	910	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	12,922	13,702	14,220	14,215	14,923	
	B. 執行済額	12,922	13,702	14,074	14,143	14,923	
	うち交付金充当額	10,338	10,961	11,215	11,314	11,938	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.0%	99.5%	100.0%	
予算の状況の説明		当初18,400台程度の補助を予定していたが、見込みを1,100台以上上回り、910千円の増額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	車両航送に対する運転手1名分の運賃補助(1名当たり810円の補助)		目標 (支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	(支援実施)	
			実績	支援実施	支援実施	支援実施	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		・車両航送1台につき運転手1名分810円の補助を行った。 成26年度から開始した事業だが、年々航送実績が伸び続けている。平成29年度は天候不良による欠航があり微増となっていたが、今年度は1,100台以上の増加となる補助を行うことができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、村民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標 ()	(80%以上)	()	()	()
			実績	80%			
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		本事業へのアンケートを行った結果、移動しやすい環境になったかの間に「とても実感している」「やや実感している」との回答が80%となっている。また、今後も継続してほしいとの回答が100%となっており、住民への負担軽減が定住条件の改善や住みよい村づくりへ繋がっているものと考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは「今後も負担軽減事業を続けて頂きたい」との声が上がっており、令和3年が事業最終年度となっていることから、今後の取り組みについて早めの具体策の検討が必要である。 悪天候による停電により、ネットワークエラーが発生し、システムが停止した際、切符購入窓口業務の混雑が見受けられる 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果を踏まえ、令和4年以降の事業についても協議を進めていき、利用者へ本事業に関する今後の取り組み予定についての周知が必要となってくる。 悪天候による落雷等によるネットワークエラーの原因を突き止め再発防止に努める。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度で本事業が終了するため、委員会等を立ち上げそれ以降の事業の取り組み方について、協議を進めていく。 ネットワークエラーが発生しないよう原因を突き詰め発電機や補助用バッテリー等の整備ネットワークの接続状況の確認を行う。 		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	14,923	14,923	11,938	2,985	
<pre> graph LR A[伊江村 14,923千円] --> B[補助金 14,923千円] B --> C[公営企業課 14,923千円] D[補助金 11,938千円] --- E[車両航送に対する補助 2,985千円] </pre>					

資金の流 点れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は唯一の航路事業者を選定しており、妥当であったと考えている。 ○執行率が100%となっており、補助対象者全ての事業を執行する事ができており、適正であった。 ○費目・使途については予定通りであり、実績報告・検査を実施したところ、目的に即し適正なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4	優良繁殖雌牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	村内畜産農家の所得向上に向けて、子牛のブランド化を推進するため、優良素牛(母牛)導入に対する支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	30,000	30,000	30,000	40,000	40,000
		(b) 予算現額	30,000	30,000	30,000	40,000	40,202
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	202
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		30,000	30,000	30,000	40,000	40,202
	B. 執行済額		30,000	30,000	30,000	39,686	40,202
	うち交付金充当額		24,000	24,000	24,000	31,748	32,000
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算にて40,000千円(100頭導入)を計上し、事業実績として40,202千円(102頭導入)の執行額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	優良繁殖雌牛の計画導入:100頭(素牛購入価格(税抜)×1/2補助上限400千円(1頭当)×100頭)		目標 (100)	(100)	(100)	(100)	
			実績 103	100	102	102	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 県内外各地から102頭の優良遺伝形質を保持する繁殖素牛の導入を支援した。 当初事業計画(導入計画)頭数を2頭上回る結果となり、目標値を達成することができた。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(26年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合115%以上		目標 (100頭導入)	(100頭導入)	(100頭導入)	(115%以上)	()
			実績	100頭導入	102頭導入	116.3%	
	【参考指標】優良母牛から生まれた子牛の価格とそうでない子牛との市場価格差の割合数値(1頭当り平均販売価格※税抜価格)		目標 ()	()	()	導入牛産子:735千円 導入外産子:640千円	()
			実績			導入牛産子:775千円 導入外産子:666千円	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の伊江村家畜市場子牛取引実績については、H30.4月～H31.3月の間に開催されたセリ市場において計1,741頭の子牛取引実績があった。取引内訳として、導入牛産子が367頭、導入牛以外の母牛産子が1,374頭であった。 取引における平均販売価格については、導入牛産子が目標の735千円を40千円上回る775千円となり、導入以外の母牛産子では比較値の640千円を26千円上回る666千円であった。 成果指標である価格差の割合115%に対して、実績として1.3ポイント上回る116.3%の価格差となり、目標を達成することができた。 					

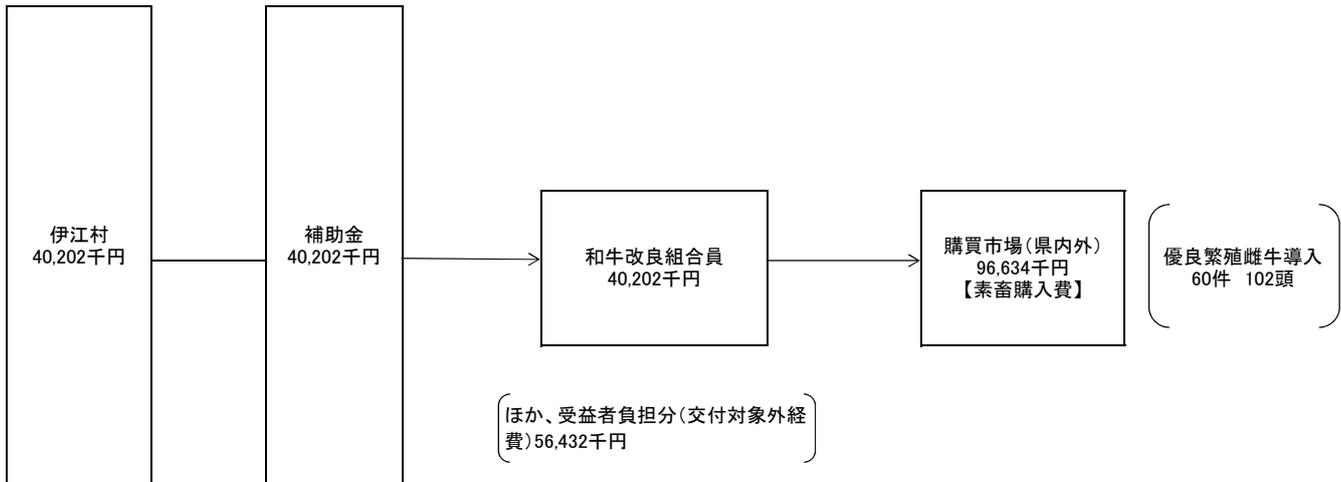
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(セリ市子牛取引実績(昨年度比較)) ・平成29年度までに計411頭の優良種畜の導入が図られており、平成29年度よりも導入牛産子が増産されたことにより、販売平均価格が上昇したことが目標達成の要因と考えられる。	(セリ市子牛取引実績(昨年度比較)) ・年間における子牛取引実績については、平成30年度に導入した優良種畜が今後成熟し子牛生産を図ることで、導入牛産子のセリ市上場頭数が更に増加し、販売平均価格の安定と上昇が見込まれるため改善の必要性はないものと考えている。しかしながら、畜産農家が子牛生産を図るうえでは、疾病等に起因する発育不良や死亡に至らない経営に務めるとともに、導入牛(母牛)の飼養管理や産子の疾病及び衛生対策管理を徹底して実施する必要がある。
	(導入牛産子とそうでない母牛産子の販売平均及び価格差の割合) ・目標値を達成できた要因として、近年の販売平均価格の上昇傾向はあるものの、H30年度当初成果指標としていた基準値115%時には、子牛を生産できる導入牛数が309頭(H26年度～H28年度実績)であったが、H29年度事業により導入された102頭がH30年内に分娩し、H30年度におけるセリ市上場頭数の導入牛産子割合が高くなったことで更に価格割合に有意差が生まれ、相乗効果により導入牛以外の母牛産子の平均販売価格の上昇にも繋がった。	(導入牛産子とそうでない母牛産子の販売平均及び価格差の割合) ・価格差の割合については、導入牛(母牛)の飼養衛生管理及び、その産子の疾病等の対策を実施することで、今後も販売平均価格割合の有意差の維持に努め、早急な改善の必要性はないものと考えられる。

今後の取り組み方針

(セリ市子牛取引実績(昨年度比較))
・セリ上場頭数の維持増頭を図るため、優良な子牛の生産及び農家の経営安定化に資する肉用牛飼養衛生管理マニュアルを作成するとともに、村、和牛改良組合、及びJAおきなわが連携して、畜産農家向けの疾病対策講習会等の実施に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
96,634	40,202	32,000	8,202	56,432



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当だと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○畜産農家の高齢化による廃業及び離農が多くみられ、年々減少していく繁殖雌牛の頭数維持並びに増頭の為に本事業を推進しており、事業実績及び成果目標指数の達成状況を含め、適正な予算規模であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は総事業費の半分以上を負担しており、妥当であると考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、補助金交付要綱に基づき補助額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	村花・世界のゆり植栽推進業務			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和2年		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	村花であるテッポウユリと世界のゆり球根を植栽し、花の島づくりを推進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		(b)予算現額	2,980	2,938	2,972	2,874	2,998
		(c)増減額(b-a)	▲20	▲62	▲28	▲126	▲2
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	2,980	2,938	2,972	2,874	2,998
		B. 執行済額	2,980	2,938	2,972	2,874	2,998
		うち交付金充当額	2,384	2,350	2,377	2,299	2,398
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	当初予定を下回る金額で契約したことで2千円減額としたが、予定した事業内容は全て執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・テッポウユリ球根50,000球(リリーフィールド公園へ植栽)	目標	(ゆりの球根購入 70,000球)	(ゆりの球根購入 50,000球)	(ゆりの球根購入 50,000球)	(リリーフィールド公園へ植栽 50,000球)	
		実績	ゆりの球根購入 70,000球	ゆりの球根購入 50,500球	ゆりの球根購入 22,400球	リリーフィールド公園へ植栽 33,691球	
	世界のゆり球根20,000球(リリーフィールド公園へ植栽)	目標	()	(ゆりの球根購入 20,000球)	(ゆりの球根購入 20,000球)	(リリーフィールド公園へ植栽 20,000球)	
		実績		ゆりの球根購入 20,000球	ゆりの球根購入 40,000球	リリーフィールド公園へ植栽 36,500球	
達成状況説明	テッポウユリの球根33,691球、世界のゆりの球根36,500球を購入しゆり祭り会場であるリリーフィールド公園に植栽した。花の咲き具合等も好評で祭りイベントの向上を図ることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	伊江島ゆり祭り来場者数31,000人	目標	()	(33,000人)	(31,000人)	(31,000人)	()
		実績		30,000人	30,000人	30,000人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	来場所31,000人の成果目標に対し、実績30,000人と目標を達成できなかったが、球根の更新を行ったことにより花の咲き具合もよく、来場者が最も多くなるゴールデンウィーク中に満開の花を咲かすことができた。世界のゆり100品種も色とりどりの花を咲かせ来場者に好評で花の島づくりを推進することができた。目標達成のために、今後も新たな目玉となる品種を選定していく必要がある。					

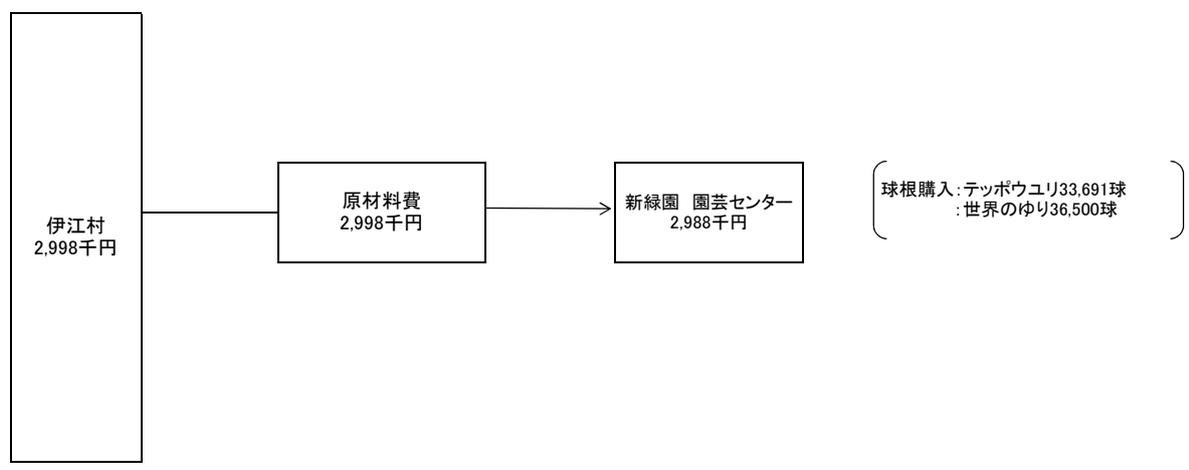
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 古い球根では花の輪数も少なく疫病にかかりやすい。植栽した他の球根へも疫病が広がることから今後も新しい球根を更新していく必要がある。 球根を更新した事により祭り全体のボリュームは良くなったが、若干、畑によって咲き具合にばらつきがあるため、購入する球根のサイズを一定にしばらつきを抑える必要がある。 来場者数目標を達成するために今後も、新たに植栽できる品種が無いか検討し、他の地域では見られないような品種を導入することで祭りの目玉として観光客の誘客に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 球根の更新、選別を徹底的に行い、優良品種育成を図る。 優良品種の球根が導入できたことにより、一定量の生産が見込めることから、球根サイズの一定化をはかり、咲き具合のばらつきを抑える。 新たな目玉になるような品種を導入することで、県内外へアピールし観光客誘客の向上に努める。

今後の取り組み方針

- 古い球根は疫病にかかりやすいため腐敗状況を確認し選別廃棄を行い、新規購入分の球根を追加することにより球根の更新を図る。
- 平成29年度に購入が減少したテッポウユリの球根を目標数量確保できるように分球を行う。またサイズの大きい球根が輪数をつけれるよう、購入先へ育成の向上を働きかける。
- 球根品種やサイズによって到花日数が違うため、植栽する畑によって球根の品種やサイズを揃え、時期をずらして植え付ける。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,998	2,998	2,398	600	0



資金の流 れ、 点 検、 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○		支出先の選定方法は妥当か。	○選定した業者は、70,000球以上の多量で良質な球根を短期間に調達できる唯一の業者であり、選定は妥当であると考えている。 ○見積もりを徴収し決定したので、予算規模、事業内容とも適正である。 ○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-② 観光地クリーン事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-エ			
	担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成27年～令和2年	観光客の受入体制の整備			
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)			
事業内容	観光地の環境美化及び保全をし、観光地の景観形成と観光客の受け入れ態勢を強化する							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額			18,000	18,000	21,000	20,100
		(b) 予算現額			20,147	21,466	19,846	17,881
		(c) 増減額(b-a)		0	2,147	3,466	▲ 1,154	▲ 2,219
		(d) 繰越額		-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)		0	20,147	21,466	19,846	17,881
	B. 執行済額				20,147	21,466	19,846	17,737
	うち交付金充当額				16,117	17,173	15,877	14,189
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)			#DIV/0!	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%
予算の状況の説明		4月時点で14人雇用しており増員を予定していたが、募集に対する応募がなく採用に至らなかったことから2,219千円減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	観光地環境美化保全作業員16名雇用 【主な美化保全観光施設】 ・城山周辺 ・リリーフィールド公園 ・ミースイ公園 ・伊江港周辺 ・ニヤティヤ洞 ・湧出 ・青少年旅行村		目標	(作業員14名)	(作業員14名)	(作業員16名)	(作業員16名)	
			実績	作業員18名	作業員16名	作業員17名	作業員14名	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	4月時点で14人雇用しており増員を予定していたが、募集の結果応募がなかったため採用に至らず、目標を達成することができなかった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	魅力的な観光地としての景観形成が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標	()	(70%)	(80%)	(80%以上)	()
			実績		70%	70%	100%	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明	・観光客の満足度について調査を実施したところ、満足したとの回答が100%であり、目標値の80%以上を上回った。						

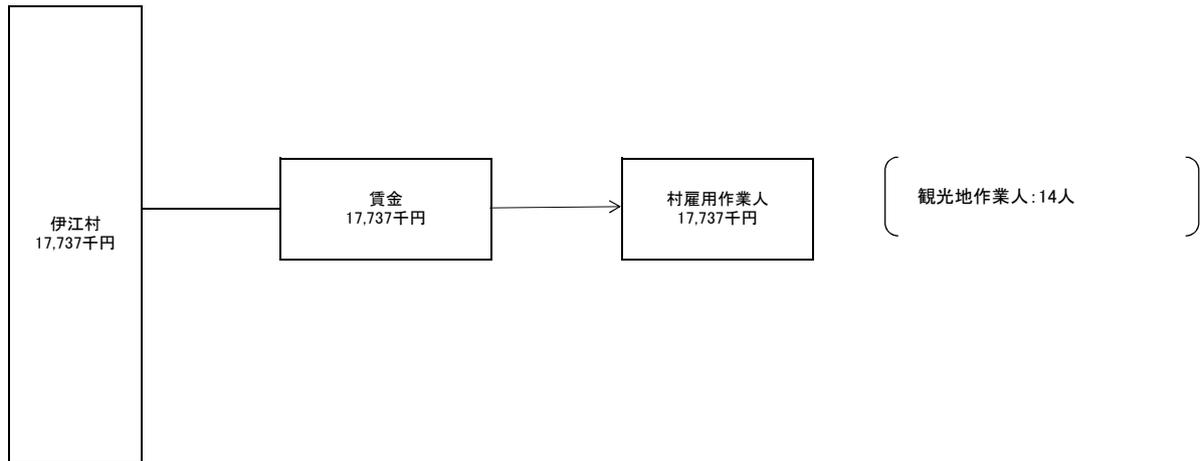
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 観光地の継続的な環境美化及び保全に努めることで快適な観光客の受け入れができたが、効率的な環境美化の実施に必要な作業員16人が確保できず作業の遅れが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的な環境美化が実施できるよう作業員16名を早急に確保する必要がある。 敷地の広い観光地については除草作業に時間がかかるため、必要に応じて作業場所の選定を行わなければならない。

今後の取り組み方針

- 作業人確保のため、村内広報誌、防災無線により募集を行う。
- 各観光地の巡回回数を増やし、観光客の来訪状況等を加味して作業場所の優先順位づけを行うことで、環境美化作業の効率化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
17,737	17,737	14,189	3,548	



資金の流 れ、検 査、評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○伊江村賃金職員雇用管理規則に基づき雇用している作業人であり、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○目標としていた作業人数を確保できなかったものの、不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	伊江村観光危機管理計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本村に訪れた観光客が災害時、安全に避難することが出来るよう計画を策定し、観光客の受入体制の強化に努める						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		平成30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000				
		(b)予算現額	10,000				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	10,000	0	0	0	0
	B.執行済額		8,100				
	うち交付金充当額		6,480				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		81.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行を行った。なお、不用額1,900千円については入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	伊江村観光危機管理計画の策定 (観光客が災害時、安全に避難することが出来るよう計画の策定)		目標 (観光危機管理計画の策定)	()	()	()	
			実績	策定完了			
			目標	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	伊江村観光危機管理計画を策定するため、伊江村観光推進協議会において現状と課題を把握し、検討会を行った。また、観光関連事業所(民宿、ホテル、民泊事業所、交通関連事業所)向けに勉強会も行い、現状と課題を把握し、本計画を策定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R2年度)
			目標	()	(観光危機管理計画の策定完了)	()	()
	伊江村観光危機管理計画の策定完了		実績		観光危機管理計画の策定完了		
	【R2成果目標】策定した観光危機管理計画に基づき避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、当該計画について検証する。		目標	()			避難訓練(1回以上/年)を実施
	進捗状況説明	伊江村観光危機管理計画を策定するにあたり、当初は共通の事業所避難経路マップ及び事業所マニュアルも策定する予定であったが、職種や事業所の場所によって避難経路や情報伝達場所を分けた方がいいということであったため、それぞれの避難経路マップと事業所マニュアルを策定した。また、本計画の避難経路や情報伝達の方法を確認する為、避難訓練も実施した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	伊江村観光危機管理計画を策定するにあたり、伊江村観光推進協議会の開催及び観光関連事業所との勉強会を行った。観光推進協議会では観光危機が発生した場合の行動マニュアル等をより具体的に示す必要があるのではという意見があり、観光危機管理計画に行動マニュアルのフローチャート等を追加した。その他、観光関連事業所から事業所ごとのマニュアルがほしいということで業種別の避難経路マップと事業所マニュアルを作成した。	伊江村観光推進協議会及び観光関連事業所と連携し、観光危機管理計画の周知を図る必要がある。また、同計画に基づいた避難訓練を行い、観光関連事業者との連携強化を図る必要がある。

今後の取り組み方針

今後は、伊江村観光危機管理計画の周知を図るとともに、計画に基づいた避難訓練を定期的に行い、観光危機管理計画に記載している備蓄食料や防災備品等を整備していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
8,100	8,100	6,480	1,620	



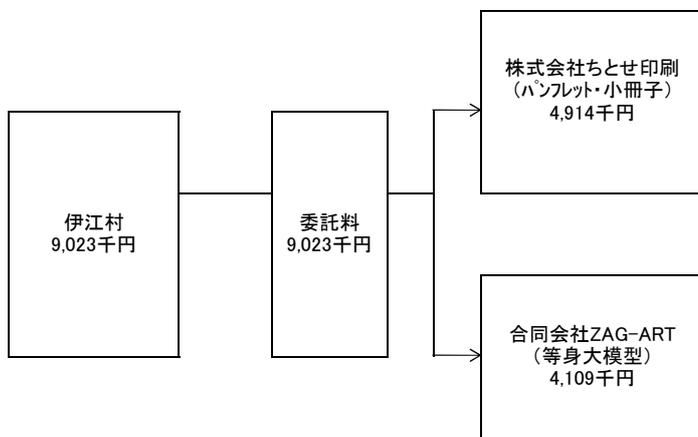
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は一般競争入札より選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、入札残による不用額があるものの、当初計画していた事業内容はすべて実施しており、適正であると考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-④	地域認知度向上支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	伊江村の認知度向上を図るため、本村独自の観光媒体や伊江島イメージキャラクター等を認知度向上戦略の一助として活用し、観光振興に繋げる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a)当初予算額	13,800					
	(b)予算現額	13,800					
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-					
	A. 計(b+d)	13,800	0	0	0	0	
	B. 執行済額	9,023					
	うち交付金充当額	7,218					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	65.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	伊江島イメージキャラクター等身大模型を、4体製造する計画であったが、海洋博管理事務所より許可が下りず3体製造したため、不用額が生じた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	観光PR媒体の作成 (パンフレット100,000部作成) (小冊子10,000部作成)	目標	(パンフレット 100,000部 小冊子 10,000部)	()	()	()	
		実績	パンフレット 100,000部 小冊子 3000部				
	伊江島イメージキャラクター造形制作(FRP造形伊江島イメージキャラクター4体制作)	目標	(4体)	()	()	()	
実績		3体					
達成状況説明	・観光PR媒体の作成ではパンフレット日本語60,000部、英語10,000部、韓国語10,000部、簡体字10,000部、繁体字10,000部、合計100,000部作成した。小冊子は年度内に配布する予定の3,000部(日本語1,000部、英語500部、韓国語500部、簡体字500部、繁体字500部)作成した。 ・伊江島イメージキャラクターの等身大模型を3体製造し、伊江港、城山、伊江ビーチ、島内観光地の3カ所に設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(H30年度)	令和元年	令和2年	令和3年	目標値(年度)	
	イメージキャラクターにより村の認知度が向上したか(80%以上)を含め、観光客等へのアンケートにより検証する。	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		78.0%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	第24回伊江島ゆり祭り会場にて観光客へアンケートを実施したところ、『イメージキャラクタータッチゅんを通して伊江村に興味を持ちましたか』の質問に対して『大変興味を持った』が135名、『やや興味を持った』が92名、合計227名(78%)という結果になり、認知度向上については効果があったと考える。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 本事業で整備した観光パンフレット、小冊子では、本村の観光情報をより多く掲載することで来島する観光客へ島内の飲食情報や、観光地情報をより具体的に周知できるように努めた。 伊江村イメージキャラクター等身大造形物は、村内でも多くの観光客が訪れる施設又は観光地へ設置し、フォトスポットとして活用されている。今回は島内だけの設置ではあるが、より多くの集客が見込まれる村外でのイベントでの活用が必要と思われる。 	作成した観光小冊子やパンフレットに掲載している店舗情報に係る更新情報等を随時確認することが必要である。
	今後の取り組み方針	
<p>県外からの観光誘客を進めるために、小冊子(観光ガイドブック)は主に県外イベント等で使用し、観光パンフレットは県内イベント等で使用していく。また、増刷時には内容の情報更新も行う。</p> <p>現在、島内観光地へ配置している等身大模型については、村内イベントである伊江島一周マラソン大会や伊江島ゆり祭り、及び那覇市で開催される離島フェア等の島外イベント等でも活用していく予定である。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
9,023	9,023	7,218	1,805	0



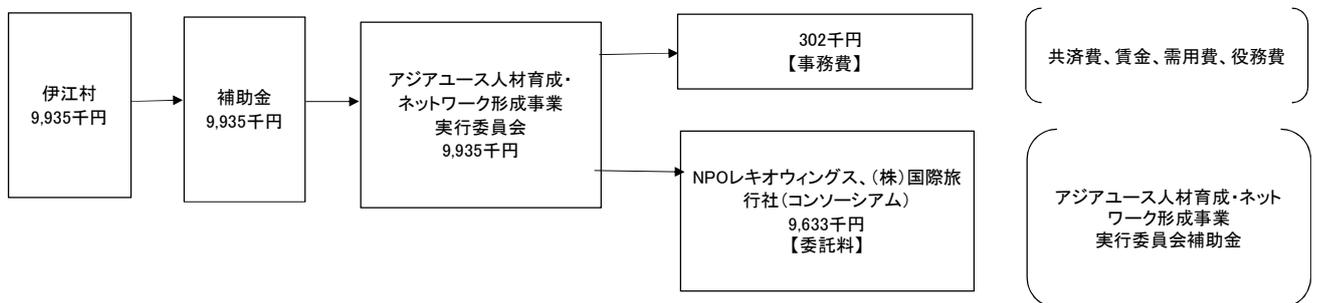
資金の流れ、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○観光情報誌の委託先については、企画提案型プロポーザル方式により選定しており妥当と考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	また、伊江島イメージキャラクター等身大模型については、入札にて選定しており妥当と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模については、海洋博記念公園に設置予定であった模型の設置許可が下りず、1体分の不用額があり、事前に関係機関との調整を行う必要があった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、業務完了後の完了検査も合格しており、適正であると認識している。

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑤	アジアユース人材育成・ネットワーク形成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成29~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	アジア諸国と3市村(伊江村・南城市・渡嘉敷村)の高校生が豊かな自然や歴史、文化などの地域資源に恵まれた環境の沖縄で共に生活しながら地域の課題に取り組み、体験交流を深める中で、国や文化を超えた友情をはぐくみ、多種多様な文化や社会、考え方があることを直に学ぶ機会を設けることで交際的な広い視野をもたせる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A. 計(b+d)		10,000	10,000			
			10,000	10,000			
			0	0	0	0	0
			-	-			
			10,000	10,000	0	0	0
		B. 執行済額	9,775	9,935			
		うち交付金充当額	7,819	7,947			
		次年度繰越額	0	0			
		執行率(%) (B/A)	97.8%	99.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	予算の状況の説明	当初予定していた事業内容は全て実施しており活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	研修プログラムの実施(約2週間)	目標	(研修実施)	(研修実施)	()	()	
		実績	研修実施	研修実施			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
	達成状況説明	・今年度は、インバウンド対応を強化するための人材育成を目標に、3市村学生(15名)、県外(3名)、アジアからはカンボジア王国、中華人民共和国、香港、インド共和国、インドネシア共和国、大韓民国、ラオス人民民主共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国から計22名の高校生を招聘することができた。2週間のプログラム期間中に、持続可能な観光(南城市)、漂着ごみ問題(渡嘉敷村)、第一次産業(伊江村)、地域の魅力(3市村)を学んだ。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	(80%以上)	()	()
		実績			93%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	保護者へのアンケートにおいて「参加学生の国際的な視野が広がったか」の質問に対して、「そう思う」と答えた方が93%であった。また、参加した生徒へのアンケートにおいて、「プログラムを通して3市村の地域の良さを理解し周りへも地域の良さを伝えたいと思いませんか。」という質問に対して、「とてもそう思う」、「そう思う」と答えた方は97%であった。このことから、国際的な視野が広がることで、インバウンド対応に必要な不可欠な異文化理解能力が高まり、今後のインバウンド対応を行う人材として活躍することが期待される。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業では、様々な諸国の高校生が慣れない環境で2週間をともに過ごすことから、健康面及び心理面のサポートに留意する必要があった。そのため、実施期間中は、カウンセラーや看護師が随行し、参加学生の安心感に繋げ、学習に集中する環境を整えることに努めた。</p>	<p>3市村の高校生がアジア諸国の学生と交流し、広い国際的な視野を獲得することを目指し、寝食を共にしながら学ぶこの研修プログラムは、様々な課題があるものの、参加した高校生の意識が変化し、プログラム最終日の姿が、この事業の成果を示している。</p>
今後の取り組み方針		
<p>3市村の地域に根ざした活動の姿勢や情熱を感じながら実践的に学び、グループでの対話や共に創る喜び、仲間と深める絆などのプロセスを経験し、同じ時間を過ごすことで、かけがえのない成長の機会を得られるこのプログラムは、大変有意義なプログラムであったと分析している。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
9,935	9,935	7,947	1,988	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○業務委託先については、公募型プロポーザル方式により選定しており、妥当であったと考える。 ○当初計画していた事業内容は全て実施しており、適正であった。 ○費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-⑥		観光客誘客環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部署名	商工観光課		事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)
事業内容	伊江港周辺や青少年旅行村、リリーフィールド公園、ミースイ公園、乗馬体験交流施設など、村内観光施設の機能拡充を図るための施設整備を行い、観光客の受け入れ態勢を強化する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	135,400	109,047	61,700	94,450	105,000
	(b)予算現額	145,070	122,105	201,937	96,071	100,505	
	(c)増減額(b-a)	9,670	13,058	140,237	1,621	▲ 4,495	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	145,070	122,105	201,937	96,071	100,505	
	B. 執行済額	145,070	122,105	201,937	96,071	100,505	
	うち交付金充当額	114,786	97,683	159,859	76,857	80,403	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初の予算額より4,495千円減額しているが、主な要因としては軽微な設計変更と入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	リリーフィールド公園整備工事(駐車場・便益施設)	目標	(実施設計)	(整備工事)	()	()	
		実績	実施設計完了	整備工事完了			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	リリーフィールド公園整備工事については、公園西側に駐車場138台分、公園中央にトイレを整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R1年度)	
		目標	()	(実施設計)	(整備工事完了)	()	()
	実績		実施設計完了	整備工事完了			
	【R1成果目標】 駐車場のアスファルト舗装、トイレの新設によりリリーフィールド公園の利便性が向上したか(80%以上)を含め、公園来場者へのアンケートにより本事業のあり方について検証する。	目標	()				(80%以上)
	進捗状況説明	リリーフィールド公園西側に駐車場138台分、公園中央にトイレを整備した。 伊江村に訪れる一般観光客又は修学旅行といった団体客等が安全・快適に観光してもらう受入体制を強化することができた。					

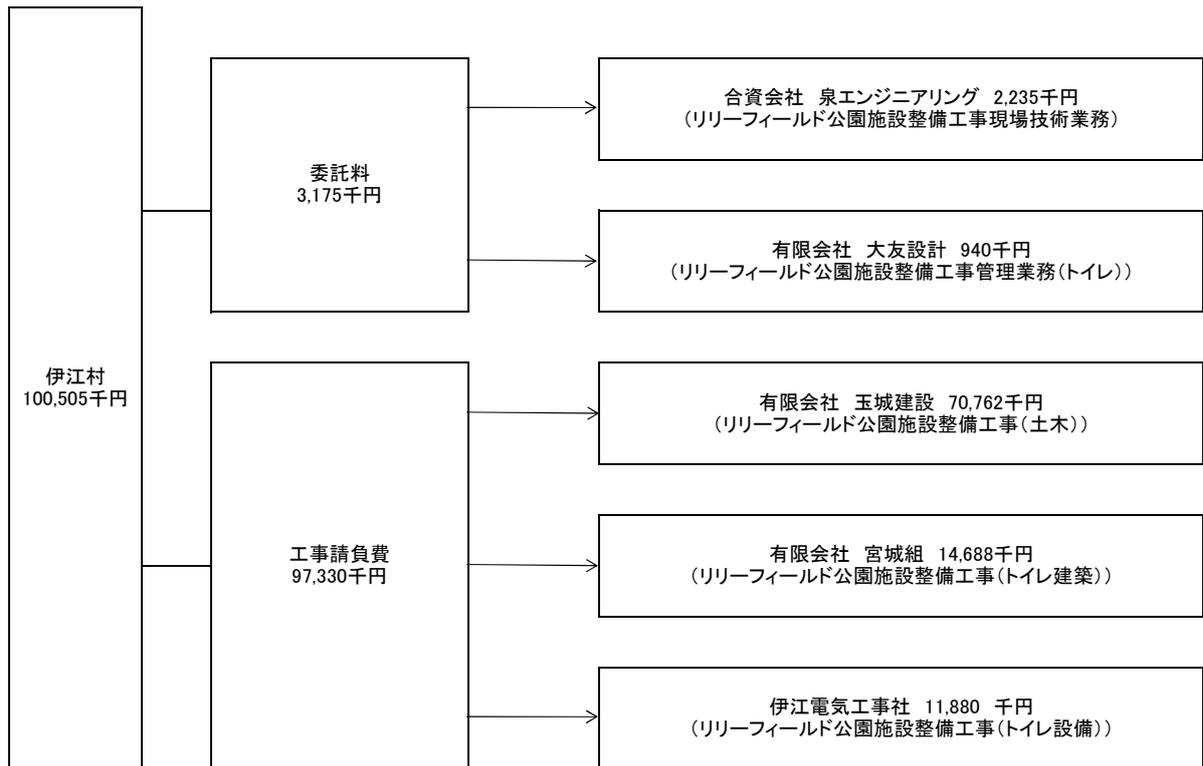
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>駐車場やトイレの整備により、リリーフィールド公園の利便性が向上したことから、さらなる観光誘客に力を入れる必要がある。</p>	<p>リリーフィールド公園への更なる誘客を図るため、伊江島ゆり祭り等において魅力的なイベントを実施するとともに、継続して魅力的な公園整備に取り組んでいく必要がある。</p>

今後の取り組み方針

地域住民及び有識者の意見を踏まえながら、平成28年度に設計したリリーフィールド公園整備を継続して実施していくことで、公園の機能強化を図り、更なる誘客につなげていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
100,505	100,505	80,403	20,102	



資金の流 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は一般競争入札より選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札残は減額し、不用額もないことから予算規模は適正であったと考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	確かな学力を育む学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部署名	伊江村教育委員会教育行政課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	小中学校への免許外教科担当者の解消と専科教諭の配置、児童生徒1人1人に「確かな学力」を身につけさせるための学習支援員の配置、更には発達障がいなど様々な障害がある児童生徒に対し特別支援教育支援員などの配置を行い、自立し生きていくための土台づくりを行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a)当初予算額	19,440	19,440	20,304	20,304	15,876
	(b)予算現額	17,351	20,536	19,590	16,143	14,828	
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,089	1,096	▲ 714	▲ 4,161	▲ 1,048	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	17,351	20,536	19,590	16,143	14,828	
	B. 執行済額	17,351	20,536	19,590	16,143	14,828	
	うち交付金充当額	13,881	16,429	15,672	12,914	11,862	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	事業概要の見直しによる事業費の減額があった。年度当初は支援員が不足していたが、後期に支援員を配置できたことで予算を執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	小学校(2校6人配置)	目標	(2校8名)	(2校8名)	(2校8名)	(2校6名)	
		実績	2校8名	2校8名	2校6名	2校8名	
	中学校(1校3人配置)	目標	(1校4名)	(1校4名)	(1校4名)	(1校3名)	
実績		1校4名	1校4名	1校3名	1校3名		
達成状況説明	年度当初は、小学校2校に7名の支援員配置を行い、9月から小学校2校に8名の配置を行うことができた。中学校においても目標値である3名の学習支援員を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 5ポイント以上 中学校 3ポイント以上	目標	()	(正答率30%未満 小学校10%以下 中学校各教科30%以下)	(正答率30%未満 小学校10%以下 中学校各教科30%以下)	(県平均正答率との差 小学校10%以下 中学校各教科30%以上)	()
		実績		正答率30%未満の割合 ○小学校3年 国語:18.4% 算数:0% ○小学校4年 算数:0% ○小学校5年 国語:14.8% 算数:2.1% 理科:4.2% ○小学校6年 算数:0% ○中学校1年 数学:34.9% ○中学校2年 国語:2.3% 数学:6.9% 理科:30.2% 社会:6.9% 英語:9.3%	正答率30%未満の割合 ○小学校3年 国語:0% 算数:0% ○小学校4年 算数:11.7% ○小学校5年 国語:0% 算数:3.5% 理科:14.2% ○小学校6年 算数:6.1% ○中学校1年 数学:43.2% ○中学校2年 国語:0% 数学:33.4% 理科:52.4% 社会:16.7% 英語:23.8%	県平均正答率との差 ○小学校3年 国語:-4.6ポイント 算数:-2.9ポイント ○小学校4年 算数:-1.8ポイント ○小学校5年 国語:-4.1ポイント 算数:-4.4ポイント 理科:-14ポイント ○小学校6年 算数:+11.9ポイント ○中学校1年 数学:-6.8ポイント ○中学校2年 国語:-3.7ポイント 社会:-5.8ポイント 数学:-1.5ポイント 理科:-0.3ポイント 英語:-0.8ポイント	
進捗状況説明	平成30年度に行われた県到達度調査において、成果目標を達成できたのは、小学校6年の算数で県の平均を11.9ポイント上回った。小学校においては、5年生の理科-14ポイントが県の平均と大きく開いている。中学校においては、理科-0.3ポイントと英語-0.8ポイントが県平均に迫るものの、全ての教科にわたって目標達成には至っていない。						

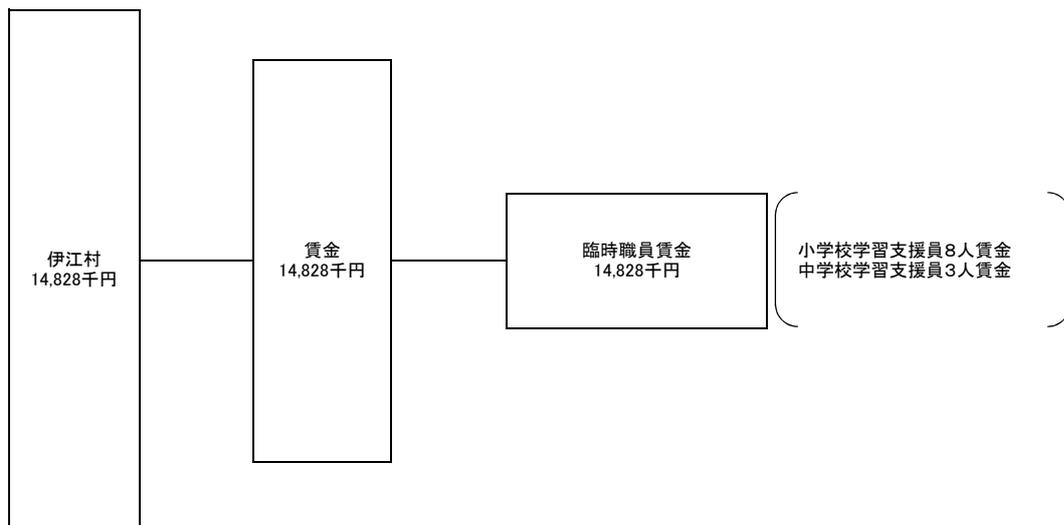
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	達成できなかった要因 (小学校) ・出題傾向の変化に、対応する力がない。 ・必要な条件を理解し、問題の中から情報を見つけ説明することに課題が見られる。 ・理科・・・実験において、器具を操作することはできるが、理科用語を使った説明に難がある。 (中学校) ・社会科においては、誤答の偏りが点から基礎基本の定着が図られていない。 ・読解力に課題があり、題意を理解するのに課題が見られ、全教科に影響を及ぼしている。	・各教科等で学ぶ意義や身に付けさせたい力の明確化、指導内容の吟味、指導方法の工夫、各担任における授業改善、及び授業力の向上が急務である。 ・児童生徒の実態把握においては、つまづいている子の身近にいる学習支援員の力は欠かせないものであり、児童生徒自身に目標を持たせるとともに、主体的に学習に向かう態度を身に付けさせ、自信を付けさせる指導が不可欠である。そのため、引き続き学習支援員の確保に努め、これまで以上にきめ細やかな学習指導を継続する。

今後の取り組み方針

- ・指導主事が行っている毎月の学習支援研において、学習指導の方法を共有し、児童生徒の確かな学力の向上に取り組む。
- ・児童生徒の困り感の見取りや支援に対する研修を実施し、きめ細やかな指導に活かす。
- ・学習支援員の安定的な確保に取り組み、研修を通して資質向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,828	14,828	11,862	2,966	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、伊江村賃金職員雇用管理規則等に基づき、有資格者等を適正に選定、任用しており妥当なものである。 ○全ての学校において、目標数の支援員を配置することができ、予算規模は適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-② 各種大会派遣費助成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(2)-ア	
	伊江村教育委員会			事業実施(予定)年度 平成25年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
担当部署名						Ⅲ-3-(1)	
事業内容	本村の児童生徒のスポーツ、文化活動等において、地区大会や県大会等への派遣旅費について支援する。						
効果発現年度	■当年度 後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	4,800	4,550	3,700	3,700	3,700
	(b)予算現額	6,288	3,917	3,671	4,094	2,043	
	(c)増減額(b-a)	1,488	▲633	▲29	394	▲1,657	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	6,288	3,917	3,671	4,094	2,043	
	B.執行済額	3	3,917	3,671	4,094	2,043	
	うち交付金充当額	3	3,133	2,936	3,275	1,205	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		H28年度の実績及び29年度実績見込みを勘案し予算計上をしていたが、助成件数が減ったため、1,657千円減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	各種大会派遣費の助成:1,000人(単年度) (伊江村児童生徒等の大会派遣等に関する補助金交付要綱に基づく補助)		目標 (派遣費の助成)	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	(派遣費の助成)	
			実績 助成実施	助成実施	助成実施	助成実施	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	助成件数の減少に伴い目標数にはいたらなかったが、児童生徒等の技術力の向上とともに、県代表に選出されるなどスポーツ面のみならず文化活動でも活躍した。 中学生 県外派遣 31名 小学生 村外派遣 876名						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。		目標 ()	()	()	(80%以上)	()
			実績			未実施	
	【参考指標】 各種大会派遣人数:1,000人		目標 ()	(1,000人)	(1,000人)	(1,000人)	()
			実績	2,029人	1,962人	907人	
進捗状況説明	・4月に開催した保護者が参加する入団式において、平成29年度の派遣費補助金額の報告を踏まえ本事業の説明を行った。 ・保護者へのアンケート実施については、児童の視野が広がったかどうかの検証のみならず、本事業の認知度に関する質問の追加等を検討したことにより、質問事項の案の作成に時間を要したため実行に移す事はできなかったが、3月に各種の指導の代表者を集めて事業の検証を行った。検証においては、本事業の補助金で費用軽減され村外大会に出場する機会が増えた事で、村外の児童生徒に「勝ちたいという目標」や「競いたい」などの意見があり、対象となる児童の視野が広がったと考えられる。						

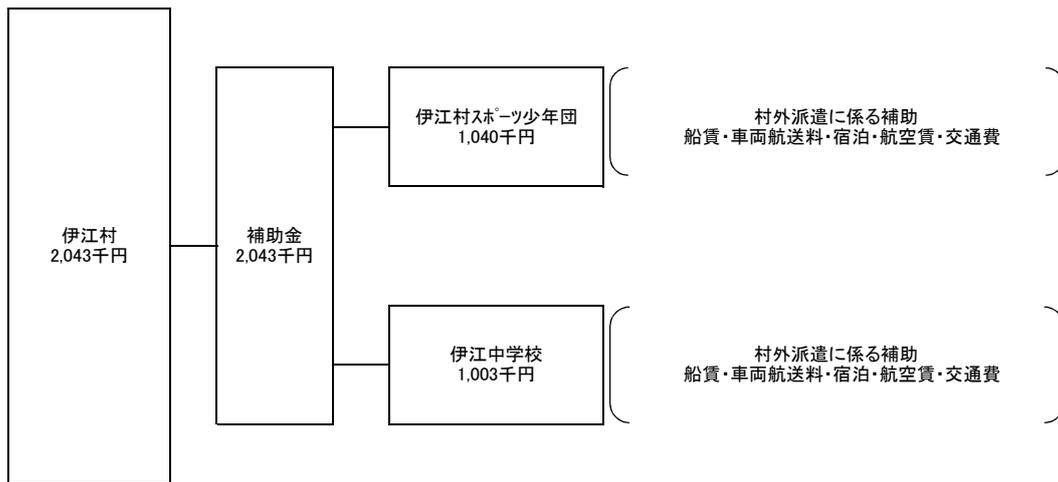
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・離島の地理的な条件不利性を克服するにあたって、沖縄本島の児童生徒等と本村の児童生徒等の費用負担の差を軽減する事で、様々な環境で活動を行うことにより生きる力や技術力向上、豊かな人間形成の向上に繋がっている。 ・本事業に対して、対象経費、対象外経費を各種競技の申請者(会計担当)に理解している方が少ないため課題である。 	<p>各種競技の申請者(会計担当者含む)を集め、本事業に係る研修会を行うことで、対象経費、対象外経費などに関する共通認識を持ってもらう。また、添付資料の不備による実績報告の遅れを防ぎ、事務の効率化を引き続き行う。</p>

今後の取り組み方針

- ・村外競技者との競争機会や交流機会を拡充するため、広報誌やホームページなどを活用して本事業の更なる周知を図るとともに、本事業において派遣した児童生徒の活躍の周知に努める。
- ・各種競技の申請者は、毎年変わるため事務手続きの誤りや漏れがないよう、事業の説明会や書面による申請案内などを引き続き行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
2,043	2,043	1,205	838	0



資金の流れ、費目、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○[伊江村児童生徒等の大会派遣等に関する補助金交付要綱]に照らし合せ、補助対象者を適正に選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、事業の周知不足により、件数が減少したことから、適正ではなかったと考えている。</p> <p>○補助金交付要綱に基づき受益者負担を行っており妥当であったと考えている。</p> <p>○交付額の確定時において支出等に関する書類により確認しており、適正であった。</p>
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

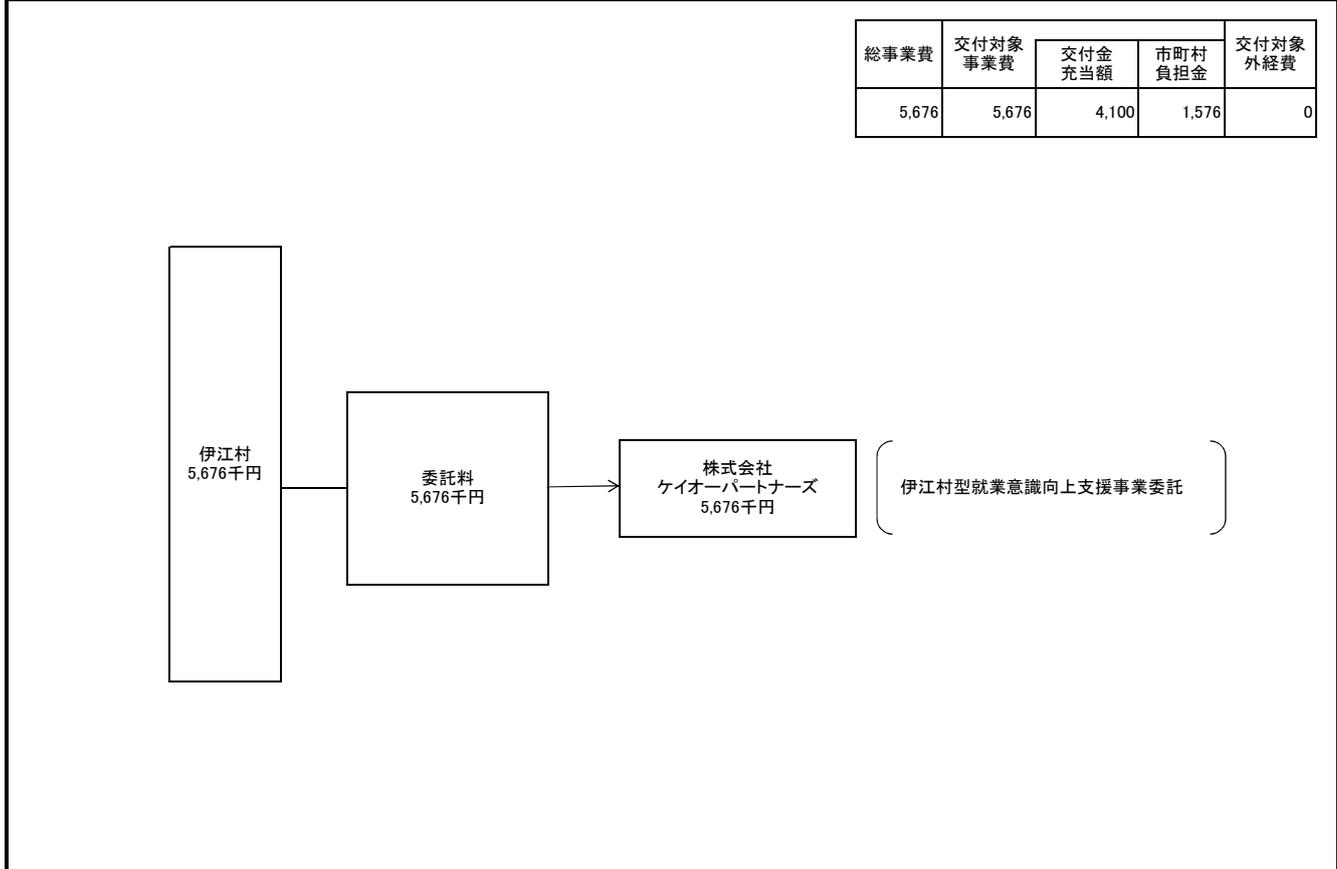
市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7 伊江村型就業意識向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(10)-カ		
担当部署名	教育行政課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		
					III-1-(2)		
事業内容	中学を卒業と同時に親元を離れ、島から旅立つ子ども達のために、早い段階からジョブシャドウイングや職業人講話、卒業生トークライブをとおして将来の夢や目標を持つとともに、自立に向けた自己イメージの習得、及びキャリア教育と就業意識の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 〔「交付金」+「市町村負担」ベース〕			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,993	5,125	5,794		
		(b)予算現額	3,392	5,064	5,676		
		(c)増減額(b-a)	▲601	▲61	▲118		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	3,392	5,064	5,676		
	B. 執行済額		3,392	5,064	5,676		
	うち交付金充当額		2,713	4,051	4,100		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		委託先人件費の減等により、当初予算より減額となっているが、計画通りに事業を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	企業訪問・体験開催1回	目標	(訪問・体験開催)	(訪問・体験開催)	(訪問・体験開催)		
		実績	訪問・体験の実施	訪問・体験の実施	訪問・体験の実施		
	職業人講話開催4回	目標	(講話の開催)	(講話の開催)	(講話の開催)		
		実績	講話の開催実施	講話の開催実施	講話の開催実施		
	卒業生による進路講話開催1回	目標	(進路講話開催)	(進路講話開催)	(進路講話開催)		
		実績	進路講話の開催実施	進路講話の開催実施	進路講話の開催実施		
	島のみりよく発信1回	目標	()	(みりよく発信)	(みりよく発信)		
		実績		みりよく発信の実施	みりよく発信の実施		
小学生30名 中学生129名	目標	()	()	小学生30名、中学生129名の参加			
	実績			小学生30名、中学生129名の参加			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 小学生では事前学習から始まりジョブシャドウイング事後学習及び発表会を行い、村内で見聞の出来ない職業を体感する事が出来た。 中学校では全校生徒を対象にさまざまな職種の方を招き、中学卒業から今の仕事に就くまでの経過や心境を聞くことができた。 高校生を講師として高校生活に必要な事、これからの目標、一人暮らしの体験などを聞くことができた。 学校推薦により選抜された中学生が、離島フェア2018の伊江村関連企業ブースで、観光や特産品の魅力を来場者に伝える販売体験を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	就業意識が向上したか(80%以上)を含め、イベントに参加した児童生徒へのアンケートにより本事業へのあり方を検証する。	目標	()	()	(80%以上)	()	()
		実績			98%		
	【参考指標】 企業訪問・体験(小学生)6年生95%	目標	()	(95%)	(95%)	()	()
		実績		100%	97%		
	【参考指標】 職業人講話(中学1・2年生)90%	目標	()	(90%)	(21:36)	()	()
		実績		100%	23:31		
	【参考指標】 卒業生による進路講話(中学3年生)90%	目標	()	(90%)	(90%)	()	()
		実績		100%	95%		
	【参考指標】 島のみりよく発信隊(中学生)90%	目標	()	(50%)	(90%)	()	()
実績			0%	100%			

進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童を対象に事前・事後学習を行い、村外でのジョブシャドウイングを実施することにより村内で見事な出来の職業を観察する事ができた。 ・全中学生を対象に村内在住の方や村外で活躍する村内出身者を講師として、中学卒業後から現在の職業に就くまでの過程・体験談とおして、どのように目標を探していくか等、中学校生活や進路選択について講話を実施した。その後のアンケートでは、とても良かった・良かったと回答した割合が98%あり、仕事に対する考えを学ぶ事ができた。また、就業意識が向上したと回答した割合は98%であり、目標値である80%を上回った。 ・高校生を講師として中学生を対象に高校生活に必要な事、一人暮らしの大変さ、今後の目標設定等の講話を実施し、15歳で親元を離れることの大変さや周りの協力の大切さなど、経験した先輩方から貴重な話を聞くことが出来き自分自身の将来をイメージするきっかけとなった。 ・島のみりよく発見隊については、離島フェア2018に参加してもらい、伊江村関連企業ブースで、観光や特産品の魅力を来場者に伝える販売体験と、その事前・事後学習を通して、村の魅力を再発見する取組ができた。
--------	---

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生ジョブシャドウイングについては、継続的に行うことにより、受入先の賛同企業が増えてきている。 ・職業人講話については、授業との兼ね合いで平日でしか実施できず、講師の仕事の都合もあり、人選に苦慮している。 ・島のみりよく発見隊については、事前学習の中で、島の特産品の種類や製造過程、マナー講座等を行い、参加した生徒全員から参加してよかったとの声アンケート結果から見えた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・小学生ジョブシャドウイングの受入先については、本事業の趣旨を理解していただきながら、関連企業等の紹介を行っていただき、受入先の幅を広げる。 ・職業人講話の講師人選については、イージマ郷友会及び伊江村郷友会にも協力していただきながら、様々な職種の方を招聘できるよう、努力していく。 ・島のみりよく発見隊については、関係機関と継続的に連携を密に行いながら、体験を通して、生徒の就業意識向上に繋げていく。

今後の取り組み方針
<p>・これまで継続してきた実績を活かしながら、イージマ郷友会及び伊江村郷友会とも協力し、ジョブシャドウイング受入先企業の拡大や様々な職業の講師を招いての職業人講話等を今後も実施していく。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



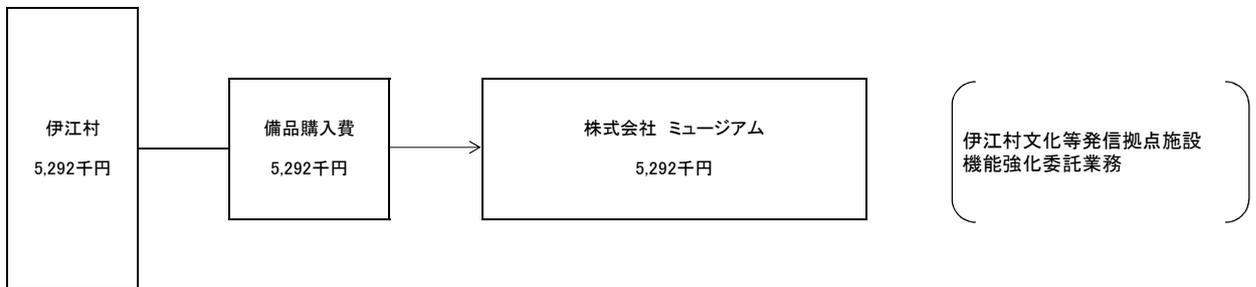
資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託先についてはプロポーザルにより業者を選定しており、妥当である。 ○予算規模については、不用額もなく、当初計画していた事業内容はすべて実施しており、適正である。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊江村						
平成30年度沖繩振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	伊江村文化等発信拠点施設機能強化事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ		
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖繩振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成		
事業内容	伊江村で質の高い文化芸術公演に触れる機会の確保を図るため、伊江島はにくすにホール施設の音響設備の機能強化を図る						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	(a)当初予算額	5,000					
	(b)予算現額	5,500					
	(c)増減額(b-a)	500	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-					
	A. 計(b+d)	5,500	0	0	0	0	
	B. 執行済額	5,292					
	うち交付金充当額	4,000					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	96.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	当初の予算額より500千円の増額が発生しているが、音響設備を整備する中で追加の配線工事及び資材の追加を行った事が主な要因である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	伊江島はにくすにホール音響設備の整備完了(音響機材一式、配線ケーブル及び資材一式の整備)	目標 (ホール音響設備の整備)	()	()	()		
		実績	整備完了				
		目標	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	音響機材一式、配線ケーブル及び資材一式を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)	
		目標	()	音響設備の整備完了	()	()	()
	伊江島はにくすにホール音響設備の整備完了	実績		整備完了			
		目標	()				(5件)
	進捗状況説明	伊江島はにくすにホール音響設備を整備したことにより、村内の方が主催するチャリティコンサートを1件開催することができた。少し大きい規模のコンサートの場合、機材等を借用しなければならないが、音響設備を整備したことにより、これまでより質の高い要望に応えることができるようになった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>これまで伊江島はにくすにホールでコンサートや芸能公演を開催する場合、音響機材を村内または村外から借用をしたり、音響機材を扱うオペレーターも専門の方にお願ひする傾向にあったが、音響設備を整備したことにより、ある程度の規模のコンサートであれば、外部から専門の方を呼ばなくても対応できるようになった。</p>	<p>現在、村内の方によるコンサートや研修会などの利用者が徐々に増えてきているが、まだ村外の方によるコンサートや芸能公演等が実施できていないため、今後は伊江島はにくすにホールの音響設備の状況を広く周知する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>今後は、伊江島はにくすにホールでの利用者数を増加させるため、ホールの音響設備の状況を伊江村のSNS等のツールを利用して発信するとともに、これまで伊江村でコンサートや芸能公演等を開催した事業者や団体にも周知していくことで講演数の増加に取り組んでいく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

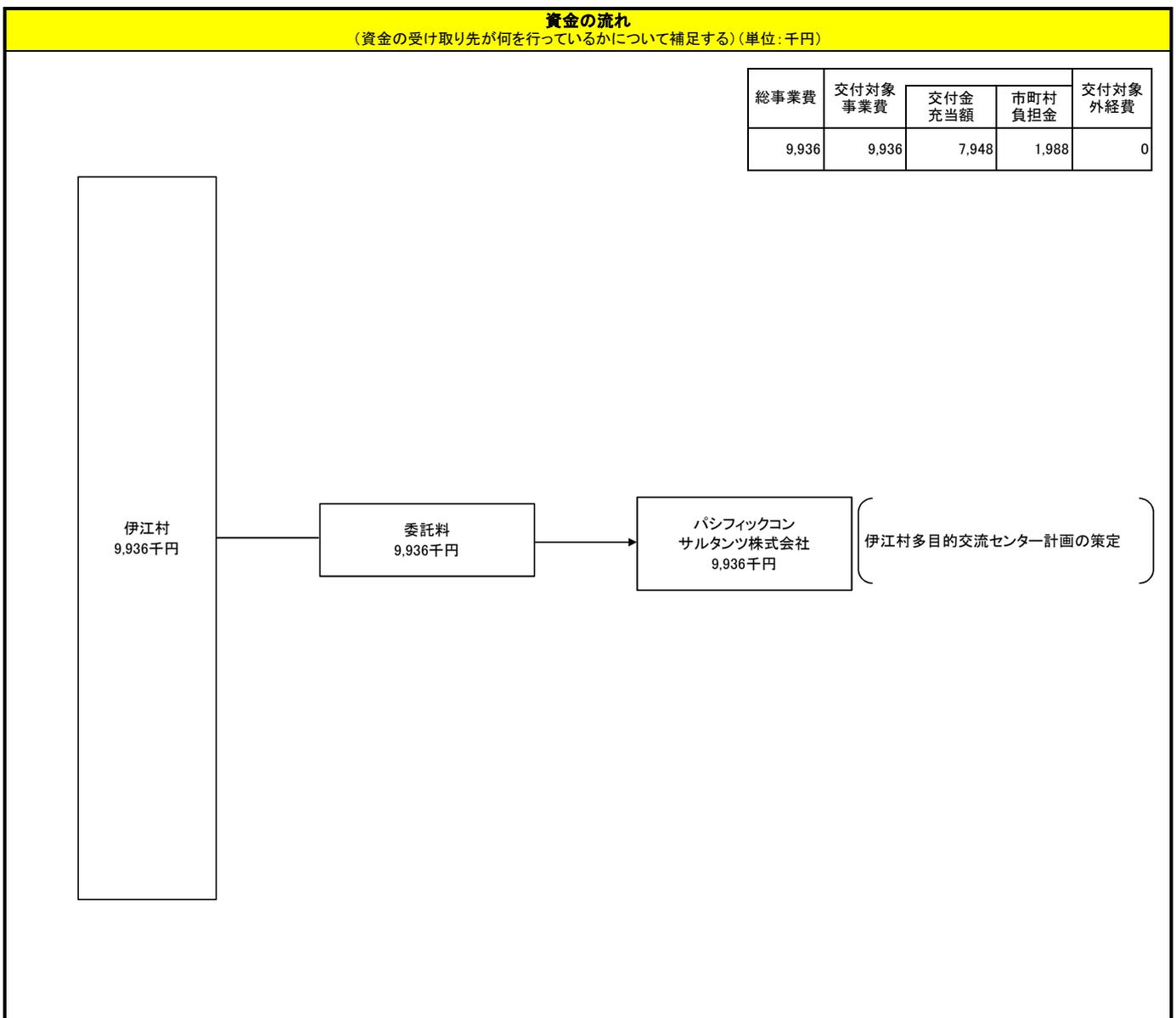
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
5,292	5,292	4,000	1,292	



資金の流 れ、費 用・ 評価目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者選定は一般競争入札より選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額は5%以内で、当初計画していた事業内容はすべて実施しており、適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	伊江村多目的交流センター整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部課名	政策調整室	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和2年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本村が取組むスポーツコンベンションを推進するとともに、合宿や教育旅行民泊の受入れ人数の増加を図ることを目的として、伊江村多目的交流センターの基本構想を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a)当初予算額	13,000					
	(b)予算現額	14,000					
	(c)増減額(b-a)	1,000	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-					
	A. 計(b+d)	14,000	0	0	0	0	
	B. 執行済額	9,936					
	うち交付金充当額	7,948					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	71.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明	指名競争入札において、予定価格と比較し低い落札率であったことから執行率が71%となっているものの、当初予定していた業務を計画どおりに実施することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度		
	伊江村多目的交流センターの基本構想の策定(施設規模・関係機関協議・事業スキームの決定など)	目標 (基本構想の策定)	()	()	()	()	
実績	基本構想の策定完了						
達成状況説明	基本構想の策定にあたり主な目的であった施設規模の決定、関係機関との協議、事業スキームなどを検討しとりまとめを行い活動目標であった基本構想の策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R元年度	R2年度	目標値(R3年度)	
	施設整備に向けた事業手法の決定(PFI等)	目標	()	(事業手法の決定)	()	()	()
		実績		事業手法の決定完了			
	施設規模の決定	目標	()	(施設規模の決定)	()	()	()
		実績		施設規模の決定完了			
	事業スケジュールの決定	目標	()	(事業スケジュールの決定)	()	()	()
		実績		事業スケジュールの決定完了			
【R3年度】基本構想を踏まえて目標受入れ人数を設定し、当該数値を目標とした施設運営を行う。	目標					目標受入れ人数を設定し、当該数値を目標とした施設運営	
進捗状況説明	成果目標である施設整備に向けた事業手法や施設規模、事業スケジュールの決定を行ったほか、施設整備候補地の決定や施設規模等の施設計画を作成した。また、概算工事費の算出や収支計画の策定を行い、今後の施設整備に向けた基本要件を整理することが出来た。更には村内の既存宿泊施設等との協議を行うことにより今後の施設整備に必要な条件等を明らかにすることができた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	施設整備候補地の決定や施設規模の検討をすることによって施設の配置計画等の策定を行ったが、今後の実施設計の段階においては、類似施設等との比較等を詳細に行うことによって、より利用者の立場で利便性と魅力のある施設となるよう取組む必要がある。	施設の完成までには実施設計と工事期間による一定の時間があることから、基本構想において決定することが出来なかった滞在型観光客を増加させるために必要な村内既存宿泊業者との官民連携による具体的な取り組みスキームを引き続き検討していく必要がある。 また、施設完成までの期間を利用し近隣市町村とも連携してスポーツ合宿を誘致できる体制が整備できるよう、北部地域が一体となったスポーツコンベンションの誘致に向けた協議を行い、事業効果の発現を高める取り組みを行う必要がある。
	また、村内既存宿泊施設等との協議によって、行政と民間の連携により村全体の滞在型観光客を増加させるために必要な項目が明らかとなったが、具体的な連携スキームの決定までには至らなかったことから、今後も引き続き当該スキームの構築に取組む必要がある。	
今後の取り組み方針		
基本構想の策定が完了し、今後は実施設計と施設整備に約2年の期間を要することから、村内既存宿泊施設等との協議によって、官民連携による村全体の滞在型観光客を増加させるために必要な具体的な連携スキームの構築を図る。 更には、北部全体でスポーツコンベンションが誘致できるよう、ワンストップの相談窓口を設置するとともに、近隣市町村が一体となった取組体制が整備できるよう、その協議を行う推進協議会等の設置に向け取組んでいく。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定されており、妥当であったと考えている。 ○執行率が71%であったものの、落札率の結果であり妥当であったと考えている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊江村					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	水産物高付加価値化推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部署名	伊江村役場 農林水産課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興		
事業内容	伊江村で水揚げされる魚類を中心に鮮度保持向上を目的に、荷捌き施設や漁船等(貸出)にNANOバブル発生装置を整備し、付加価値をつけた出荷や販路拡大を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,000				
		(b)予算現額	18,000				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	-				
		A. 計(b+d)	18,000	0	0	0	
		B. 執行済額	14,400				
		うち交付金充当額	11,520				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	80.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	予算の範囲内で適正な執行を行った。なお、不用額3,600千円については入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	NANOバブル発生装置一式の整備	目標	(一式整備)	()	()	()	
		実績	一式整備完了				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・NANOバブル装置を荷捌き場に設置した。 ・NANOバブル発生装置で処理することで、鮮魚として付加価値を付けることができ、今後の販路拡大においてもPR出来るものと考えられる。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)
	NANOバブル発生装置一式の整備完了	目標	()	(装置整備完了)	()	()	()
		実績		装置整備完了			
	【R1成果目標】 新規販路拡大 2件	目標					(2件)
		進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで鮮魚として1日～2日の期間でしか扱えなかった魚類が、NANOバブル発生装置の整備完了により日持ちすることで、鮮魚を扱う業者へ鮮度をPRできたと考えられる。 				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	NANOバブル発生装置を整備できた事で、県内外へ鮮魚として取り扱ってもらえるようになり販路拡大に繋がるものとする。	NANOバブル発生装置で処理された鮮魚が、どの程度日持ちするのか調査し、市場へ鮮度をPRして販路拡大を図る。
今後の取り組み方針		
<p>今後は市場の状況を把握するとともに、販路拡大はもとより、漁船等への貸出しを増やして付加価値を高めていくことにより、村の水産業の振興に努めていきたい。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,792	14,400	11,520	2,880	4,392
<pre> graph LR A[伊江村 14,400千円] -- 補助金 14,400千円 --> B[伊江漁業協同組合 14,400千円] B --- C[NANOバブル発生装置整備] B --- D[ほか、漁協負担分(交付対象外経費) 4,392千円] </pre>				

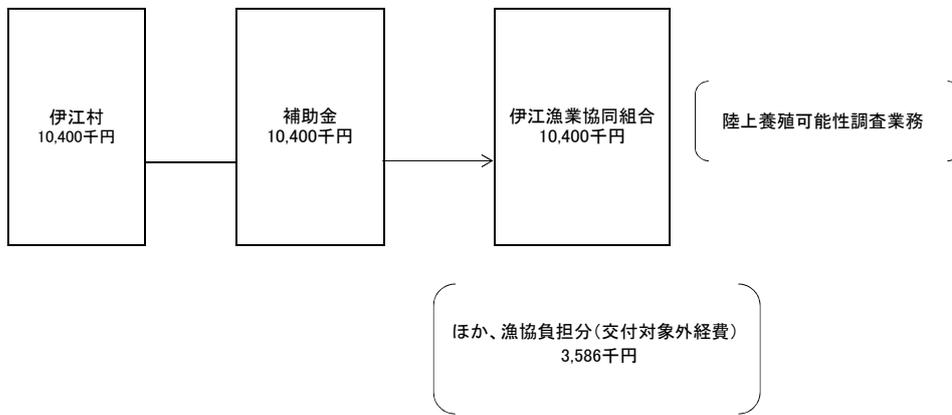
資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○水産物加工施設に精通している伊江漁協に補助金を支出し、事業実施主体とするのが妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、目的に即した事業内容で実施されていることから、適正であると考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は、総事業費の2割を負担しており、事業内容から判断して妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途に関しても検査した結果、適正と判断した。

市町村名	伊江村							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	10-②	離島における陸上養殖可能性調査事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ			
担当部署名	伊江村役場 農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成30年～令和2年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	農林水産業の振興			
事業内容	伊江村の漁業振興に向けて、これまで、夏場の海水温の上昇等により栽培ができなかった海藻養殖等に着目し、産学官連携により、伊江島琉球石灰岩地層の地下水を汲み上げ、新たなろ過海水による陸上養殖事業として、海藻養殖等の事業化に向けた、海水調査事業を実施する。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	13,000					
		(b)予算現額	13,000					
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)繰越額	—					
		A. 計(b+d)	13,000	0	0	0	0	
	B. 執行済額		10,400					
	うち交付金充当額		8,121					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		80.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		予算の範囲内で適正な執行を行った。なお、不用額2,600千円については入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度		
	陸上養殖の可能性調査	目標	(現地調査)	()	()	()		
		実績	現地調査完了					
		目標	()	()	()	()		
実績								
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖施設として検討している場所の地下水を確認できた。 ・養殖用の海水として適しているかどうか、水質調査上問題が無い事が確認できた。 							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (R3年度)	
	調査結果報告書作成	目標	()	(報告書作成)	()	()	()	
		実績		報告書作成完了				
	【R3成果目標】 調査結果を踏まえて生産量目標値を設定し、当該数値を目標とした陸上養殖を実施する。		目標					生産量目標値を設定し、当該数値を目標とした陸上養殖
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果報告書を作成し、陸上地下水を活用した青のり等の陸上養殖の可能性を検討するため、先進事例調査や養殖事業化に向けた課題の検討を行った。 ・地下水の確認及び水質調査結果により、今後、陸上養殖の試験栽培を行い適正が確認できれば施設整備を実施していく。なお、種苗生産を行うためには、高知大学の胞子集塊化法を使用することになるので協議等が必要である。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>養殖に問題の無い水質であることが確認できたことで、養殖栽培試験へ移行できる条件が整ったと考えられる。</p>	<p>水質を確認したのが9月中旬で、海水温23度とアオノリの陸上養殖栽培試験においては適正な水温ではあるが、夏場(7月~10月)の海水温を検査し、適正品種の選定や陸上養殖の可能性を調査する必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>一年を通し養殖可能性試験を調査し、本村に適した品種を選定する事で水産振興の向上に努める。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
13,986	10,400	8,121	2,279	3,586



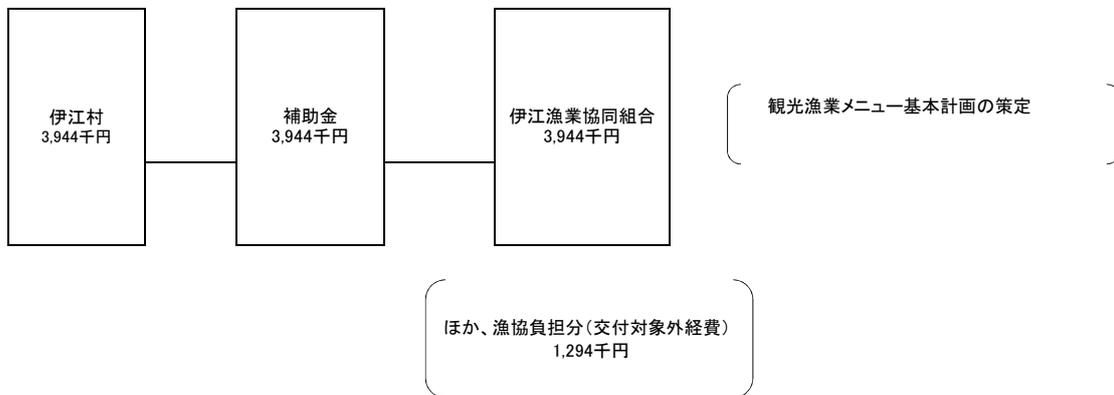
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○陸上養殖可能性調査業務にあたっては、村内で唯一の陸上養殖の経験がある伊江漁協へ補助金を支出しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、目的に即した事業内容で実施されていることから、適正であると考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は、総事業費の2割を負担しており、事業内容から判断して妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途に関しても検査した結果、適正と判断した。

市町村名	伊江村						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-③	伊江村観光漁業コンテンツ開発事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部署名	伊江村役場 農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成30年～令和3年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	農林水産業の振興	
事業内容	伊江村魚類養殖場を活用した、新たな観光漁業のコンテンツ導入を図り、豊かな資源を活用した漁業振興の向上を図る目的として基本計画を策定する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,930				
		(b)予算現額	4,930				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	4,930	0	0	0	0
		B. 執行済額	3,944				
		うち交付金充当額	3,155				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	80.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明	予算の範囲内で適正な執行を行った。なお、不用額986千円については入札残によるものである。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	観光漁業メニュー基本計画の策定 (ニーズ調査・先進地調査・規模、利用収益調査)	目標	(基本計画の策定)	()	()	()	()
		実績	基本計画の策定完了				
達成状況説明	・先進地調査・ニーズ調査・施設規模の決定ができたことで、新たな観光メニュー開発の取り組みが行える。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (R4年度)
	基本計画の策定	目標	()	(基本計画の策定)	()	()	()
		実績		基本計画の策定完了			
	【R4成果目標】 基本計画を踏まえて、養殖場出荷額等の漁業振興に係る目標値を設定し、当該数値を目標とした運営を実施する。	目標					養殖場出荷額等の漁業振興に係る目標値を設定し、当該数値を目標とした運営
		進捗状況説明	・成果目標である基本計画の策定を行い、民泊利用者や観光客等を対象とした釣り堀施設設置の可能性について、施設規模や概算事業費及び施設収益等を算出し事業化の検討を行った。 ・新たな観光漁業メニューの策定が完了し、実証用釣り堀施設を設置した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	新たな観光メニューの基本計画ができたことで観光漁業の振興に寄与するものと考ええる。	県外では成功事例が多くあるが、県内では釣り堀が整備されていないので、十分にニーズ調査を行い施設の整備に取り組み観光漁業メニューの充実を図る。
今後の取り組み方針		
新たな観光漁業の向上を図るうえからも、今後は県外の釣り堀施設等に関する優良事例を検証し、本村独自の釣り堀施設等を整備することで観光誘客に努める。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
5,238	3,944	3,155	789	1,294



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、村の漁業振興の中心を担う村内唯一の漁業団体であり、妥当であったと考える。 ○予算規模は、目的に即した事業内容で実施されていることから、適正であると考えている。 ○受益者である漁協は総事業費の2割を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。 ○費目・使途に関しても検査した結果、適正と判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	